



会員寄稿

施設見学会に参加して ～マツダスタジアムのもう1つの顔～

朝日設計株式会社／設計部 酒井和也



1. はじめに

私は、平成12年に大学を卒業して現在在籍している朝日設計株式会社に入社し、会社がある香川県に来てもうじき20年が経とうとしております。その間に上下水道に関する様々な講習会や研修等に参加させていただきましたが、今回はその中でも特に印象が残っている施設見学会についてお話しさせていただきたいと思えます。

2. 施設見学会の概要

その施設見学会は平成22年11月に開催された見学会であり、(公社)全国上下水道コンサルタント協会中国・四国支部が主催となり、会員の技術・資質向上の一環として毎年行われているものでありました。

見学会への参加については、その2か月前くらいに上司からお話をいただきました。見学する施設を聞くと、「行きます!」と即答させていただきました。と言いますのも、その年の見学会の対象施設は、オープンして2年目のマツダスタジアムであったからです。私の故郷は広島ではありませんが、中国地方の真ん中で生まれ育ち、小さいころから広島東洋カープに慣れ親しんでおりましたので、新しくなったスタジアムにも足を運んでおりましたし、そのスタジアムの普段立ち入ることができないエリアもいろいろと見学できるのではないかと思います。相当興奮させられるお話でした。

でも、なぜマツダスタジアムを見学するのだろうか?上下水道と何か関係があるのだろうか?と、疑問が湧いてきました。当時はスタジアムの地下に雨水貯留池があるとは夢にも思っていませんでしたので、その存在を知って、上下水道の仕事に携わっていたからこそ見学会に参加できることになったものと思い、心から良かったなと思いました。

それでは、施設見学会の内容についてお話しします。見学会の前半は雨水貯留池内部や設備等の見学、後半はスタジアムの各種エリアの見学の2部構成でしたので、その2つに分けてお話しします。

3. 雨水貯留池の見学

まず、雨水貯留池の概要について簡単に説明しておきます。この雨水貯留池は、近年の局所的な豪雨等による都市域の浸水に対して安全度を向上させる必要があるなか、都市機能が集中するJR広島駅周辺地域の浸水対策事業として整備されたものであるとのこと。

(概要)

名称：大洲雨水貯留池

形状：外径φ100m、高さ5.35m、内空高3.85m

水槽容量：15,000m³

構造形式：現場打ち同等型プレキャスト

鉄筋コンクリート構造

基礎形式：直接基礎+深層混合処理工法併用基礎

工期：H18.11～H19.11(本体工事のみ)

見学はまず、エレベーターで地下へ降り、管廊室となっている長い通路を奥へ歩いていきました。すると、貯留池の入口や再利用設備等が設置されている広いスペースに到着しました。この貯留池では雨水の再利用を行うこととして1,000m³の水槽を設け、ろ過処理してグラウンドへの散水やトイレ用水等に再利用しているそうです。

これらの説明を受けた後、貯留池の入口を開けて中に



写真-1 雨水貯留池の内部



写真-2 雨音の小径

入りました。中はとにかく広い空間で、うす暗い空間内に無数の柱が立てられており、はるか昔に造られた地下神殿のようで、神秘的な雰囲気がかかっています。

これらの柱や梁はプレキャスト製の部材であり、平成21年3月のプロ野球開幕に向けて約1年という短い期間で貯留池を建設することが求められていた中で、これらのプレキャスト部材を使用して現地で組み上げる「現場打ち同等型プレキャスト鉄筋コンクリート構造」を採用されたとのこと。あまり聞き慣れない工法でしたが、これだけの規模の構造物を1年で作り上げてしまうのは、先ほどの昔の神殿の話とは打って変わって進歩し続けてきた土木技術のなせる業であり、とにかく素晴らしい一言でした。ちなみに、柱は192本、梁は414本、床版は806枚使用しているとのこと。

貯留池内部を一通り見学したら地上に戻り、球場の周りにあるせせらぎ水路の説明を受けました。先ほどお話しした再利用水をこの水路にも利用しているとのこと、名前は雨音の小径（あまおとのこみち）と言うそうです。

ですが、もうこの頃になると、「そろそろ貯留池見学は終わってスタジアムの見学に移るんだろうな」と気もそぞろで、新しくなったスタジアムには数回訪れていたものの、滅多に入ることができないエリアを見学できるので興奮度は最高潮に達しておりました。ということで、次はいよいよスタジアムの見学についてお話ししていきます。

4. スタジアムの見学

先に、スタジアムの概要について簡単に説明しておきます。以前のカープ本拠地である旧市民球場は開設後約50年経過し、施設の老朽化や観客サービス等の機能面で多くの課題がありました。さらに低迷するカープの成績も相まった…かどうかはわかりませんが、それらの理由

から市民や経済界で新球場建設の機運が高まり、新スタジアム建設のプロジェクトが進んでいったそうです。

(概要)

名 称：MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島
(略称：マツダスタジアム)

グラウンド：右翼100m, 左翼101m, 中堅122m,

最高高さ30.65m

12,710㎡, 内外野天然芝（一部土舗装）

観客定員：33,000人

工 期：H19.11～H21.3

スタジアムの見学は内野席にあるパーティフロアがスタートです。ここからいろいろな観客席を見学しながら、1つ目の目玉である三塁ベンチに移動しました。さすがにカープ側の一塁ベンチではありませんでしたが、ピッチャーチーム用のベンチでも臨場感はすごく伝わってきました。ベンチの裏にはブルペンがあり、こちらも見学させていただきました。真新しい綺麗な空間で、結構広いんだと感じました。ここでウォームアップすれば気分



写真-3 三塁ベンチから一塁側を望む



写真-4 ブルペンの内部

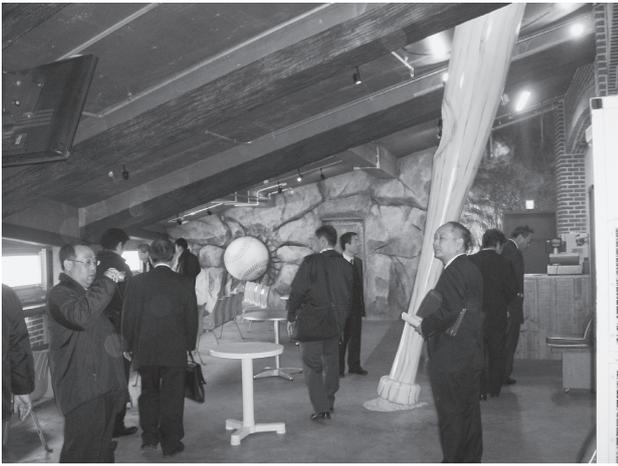


写真-5 スポーツバーの内部



写真-6 グラウンドの水撒き

も高まり、どんなバッターでも抑えられそうです。さらにロッカールームも見学させていただきました。これらは選手や関係者しか入ることができませんので、貴重な体験となりました。

続いて、焼き肉のたれの看板でお馴染みのびっくりテラスでバーベキューの雰囲気だけを味わいながら、2つ目の目玉であるスポーツバーに移動しました。ここは観客席の一つですので、チケットを購入すれば入れますが、グループで観戦するような機会は減多にありませんので、こちらも貴重な見学でした。中に入ると見覚えのある大きなバットが室内中央に鎮座しており、テンションが上がります。他にも旧市民球場で使われていた大物選手のロッカーやオブジェが飾られており、ここでのお酒を飲みながらの観戦は盛り上がること間違いなさだろうという雰囲気でした。

最後にまたいくつかの観客席を見学してありましたところ、グラウンドではちょうど水撒きが行われていました。これは前述の雨水貯留池の再生水が活用されているものであり、スタジアムという娯楽施設の見学でありながら、携わっている上下水道の仕事に繋がる部分も感じながら見学会は終わりました。

5. おわりに

今回の施設見学会は上下水道に関わる施設を見学できる上、話題性の高い新スタジアムまで見学させていただきました。このような魅力的な見学会を開催してくださった協会に感謝しております。また、この見学会に私をマッチングしてくださった上司にも感謝しております。

現在、少子高齢化等の理由から私たちの上下水道業界においても担い手不足や技術継承といった課題がありますが、今回のように様々な上下水道施設を訪問して直接見て触れることができる見学会は貴重な体験を得ることのでき、課題解消のためにも有意義なものであると思いますので、今後も継続していただきたいと思っております。

最後になりましたが、ここ最近は嬉しいことにカーブの成績が優秀なので、チケットが簡単に入手できない状況が続いておりますが、今回お話ししたスポーツバーに限らず、これからもいろいろな観客席での観戦を楽しみたいと思っておりますとともに、'19シーズンこそ悲願の日本一を達成していただきたいと願っております。

なお、雨水貯留池及びスタジアムとも、公式の見学会が定期的に開催されておりますので、興味のある方はHP等をご覧ください。